

# 今月の畜産物市況

牛枝肉・豚枝肉・鶏卵・食鶏

## 牛枝肉

### 強もちあいで

大阪中央卸売市場における枝肉価格は、年末にやや値下がりを示しましたが、1月に入って寒さも手伝って順調に取引され価格も一段と高値をつけた。肉牛は生産の回転がおそく収益性が低い、産地がかぎられている等から例年供給不足の状態が強もち合いが続いているが、輸入肉と競合する関係にあるため暴騰すれば、緊急輸入されるので、大巾な高値は期待出来ない。

ただ気になることは2月に入って肉豚の出荷増が予想されるので、豚肉が値下りすれば、ある程度は影響を受けるものと予想される。

## 豚枝肉

### ジリ安で

昨年9月以降ややジリ安歩調で年末を迎えていた肉豚も、年明後はもち合って大阪中央卸売市場での枝肉中値は kg 当り335円を推移している。農林省の調査では1～2月以降の肉豚出荷予想頭数は、対前年比約3割増と予想されているのと共に、産地の増産体制は軌道に乗っており加えて例年1～2月は豚肉の不需求期であるので、再びジリ安歩調になるものと予想される。

## 鶏卵

### 安 い

年明後の鶏卵相場は、初荷相場を最高に、漸次低迷し、全販連大阪支所での1級高値は kg 当り160円と安値をつけた。2月に入ってもこれといった好況材料もみられず、生産農家は近年、農業近代化資金、農協資金等の借り入れによって規模拡大されており、早急な規模縮小は考えられないので、ここ当分は入荷も多く安値が続くものと思われる。

## 食鶏

### もちあいか！

年末から年始にかけては、毎年のような安値を警戒してか、供給に大きな変動もなく順調な売れ行きを示した。その後も、暴落を警戒してか出廻りは減少気味で、相場も維持されてきた。

2月は需要も少なく、例年ひまな月であるが、このままゆけばそう入荷が多くなるとも考えられず、弱もちあいながら現在値を維持し、3月に入るものと考えられる。